

推進主体	史料館
責任者	史料館長

分類	実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
研 一 D	史料館「デジタル・ミュージアム」システムの構築	令和 7 年度	令和 9 年度	あり(予定)

**① 目的・内容**

<目的> 史料館が守り伝えてきた史料の管理・基礎情報の検索・画像公開を目的としたデジタル・アーカイブシステム構築を推進する。これにより、学習院の教育活動の下で培われた史料約25万点の活用環境の強化と、学内教員・学生はもとより、国内外への提供を通じた研究・教育力の底上げを図る。

<内容> ①史料情報の目録データベース化: 従来、紙媒体の冊子目録でしか検索できなかった史料や未公開史料を目録化し、データベースとしてWEB等での検索に応える。  
 ②デジタル画像化: 公開要請の強い史料や現物公開困難な史料(絵図・写真史料ほか)など、優先順位をつけてデジタル撮影を実施し、WEB等での公開に備える。  
 令和7年度内に①・②を統合してデジタル・アーカイブシステムを構築し、順次公開する。

**② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。**

所蔵史料全件(約25万点)を網羅する目録データベース化(収藏品管理システムを兼ねる)を遂行し、デジタル・アーカイブシステム上での検索に応える。(※ただし、WEB公開は個人情報や著作権等の問題をクリアした史料のみ)  
 選別した史料約3000点のデジタル画像化を進め、デジタル・アーカイブシステム上でWEB公開する。

**③ ロードマップ**

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定					史料情報の目録データベース化	デジタル画像化 → 継続、順次拡充	システム構築 順次オープン化(WEB公開)

**④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。**

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1	所蔵史料のデジタル画像化	所蔵史料のデジタル撮影等の完了点数(※累計)					
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標	定めていない				1500点	2300点	3000点
実績	約300点						
2							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
( 2022年度 令和4年度 )		
( 2023年度 令和5年度 )		
( 2024年度 令和6年度 )		
( 2025年度 令和7年度 )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル・アーカイブシステムの構築(業者委託・アルバイト雇用)。</li> <li>・マイクロフィルムやポジフィルム等の媒体による既存収集画像[阿部家・西園寺家・濱島家・牧家文書ほか]のデジタル変換(業者委託)。</li> <li>・学習院に関する豊富な写真史料のデジタル化(新規撮影、業者委託)。</li> <li>・英文史料[R.H.ブライス関係資料ほか]への対応・目録化(アルバイト雇用)。</li> </ul>	